

第15回「中村元東方学術賞」授賞理由

受賞者 木村 清孝

国際仏教学大学院大学教授

第15回中村元東方学術賞審査委員会報告

審査委員長 前田専學（東方研究会常務理事）

2005年10月10日インド大使館

木村清孝博士は、昭和一五年のお生まれで、東京教育大学哲学科において倫理学を専攻されてのち、昭和三八年東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専門課程の修士課程に入学されました。それ以来、一貫して華嚴思想を中心とする中国仏教、更には東アジア仏教思想の研究に従事されてこられました。

木村清孝博士はこれまでに一〇〇本を超える論文を公にされておられますが、その多くは華嚴思想の究明をなされたものであります。また単著としては十指にあまるご著書を出版しておられますが、中でも『初期中国華嚴思想の研究』『中国華嚴思想史』『東アジア仏教思想の基礎構造』にまとめられたご業績がもっとも重要なものとして挙げられると思います。

まず、この三著の中『初期中国華嚴思想の研究』（春秋社、一九七七）は、東京大学に提出された、博士の学位請求論文であります。本書は二篇より成っております。本書の第一篇において、博士は、まず従来必ずしも一様に用いられてこなかった「華嚴思想」ということばを、「華嚴経にもとづいて形成された思想一般の意味」と定義されております。その上で、『華嚴経』が伝訳されて以後、初唐代に華嚴教学が成立するまでの間に、中国仏教者によって『華嚴経』がどのように受け止められ、研究されてきたかという『華嚴経』研究の流れを解明しておられます。しかも単に理論的な面のみならず、伝記資料などをも駆使して、『華嚴経』に取り組んだ中国の仏教者がどのような信仰をもち、実践を行ってきたかをも明らかにしておられます。このご研究は、いわゆる華嚴教学の背後にある長く大きな華嚴経研究の伝統を明らかにされた注目すべきご研究であります。

さらに木村博士は、華嚴教学という一定の枠組みの中での綿密な研究が中心であった従来の傾向を脱し、『華嚴経』にもとづいて成立した偽経までも研究の対象とされ、『華嚴経』から偽経は何を摂取したかを解明され、偽経研究に新生面を開かれました。

『初期中国華嚴思想の研究』の第二篇は、「智儼とその思想」の研究に当てられています。華嚴教学を大成した法蔵は華嚴宗の第三祖に位置づけられる人物でありすが、それに先立つ第一祖杜順および第二祖智儼についてなされた詳細なご研究であります。智儼に関する博士のご研究は、総合的に智儼の思想をとらえた完成度の高いものとして高く評価されているところでもあります。

博士は、本研究によって、これまで十分に研究されることのなかった法蔵によって華嚴教学が大成される以前の華嚴思想に焦点を合わせ、従来曖昧であった華嚴思想史の一断面に新たな照明を当てられ、華嚴思想解明に顕著な貢献を果たされました。

次に、『中国華嚴思想史』（平楽寺書店、一九二二）は、従来公にされてきた関連諸論文を踏まえ、中国における華嚴思想の展開を思想史的観点から跡づけられたものであります。博士は、朝鮮、日本、あるいは一時期華嚴思想が大きな花をさかせたインドネシアをも視野に入れ、いずれ「華嚴思想史」を構想し、構築されようとされておられます。本書は、その準備となり、同時にその核ともなるもので、およそ押さえておくべき中国の重要な華嚴思想を史的にまとめられており、今後の華嚴思想研究に新しい道を開くものであります。

博士が東京大学御退官後に出版された『東アジア仏教思想の基礎構造』（春秋社、二〇〇一）は、木村博士が東京大学に在任中に発表された論考のうち、華嚴教学に関する専門的な研究を除いた東アジア仏教についての主な論文等全三九本に加筆・修正を加えて刊行されたものであります。

三九本にもものぼる論考の一々を紹介することは不可能ですが、「ヴァイローチャナ仏の語義解釈—中国における梵語解釈の一例として」など、専門家のみならず日本に住む者にとっても実に興味深い問題を扱われた数多くの論考が含まれております。

従来は、インドから東に展開した仏教は、中国・朝鮮・日本という地域の枠組みに分割し論じられてくる傾向がありましたが、近年「東アジア」という仏教の括り方がしばしば用いられるようになってきております。木村博士は、従来の仏教研究の反省を踏まえ、「東アジア仏教」という枠組みでの本格的研究の必要性を強く意識し、提言してこられました。木村博士は、本書の序説として「東アジア仏教とその研究課題」「東アジア仏教史」をどう捉えるか」という二つの論考を設け、東アジア仏教研究に関わるこの種の疑問に対しての解答、ないし東アジア仏教研究の在り方を明示されておられます。今後「東アジア仏教」を、自覚的に研究する者にとっては、通りすぎることのできない指標がここに示されたわけでもあります。

以上、主として『初期中国華嚴思想の研究』『中国華嚴思想史』および『東アジア仏教思想の基礎構造』に限ってご紹介して参りました。木村清孝先生が、これらの領域におけるご貢献はまことに輝かしいものがあり、中国華嚴のみならず、ひろく東アジア仏教思想研究に新生面をひらかれたご功績は、中村元東方学術賞にまことに相応しいものと判断され、今回の授賞となった次第であります。